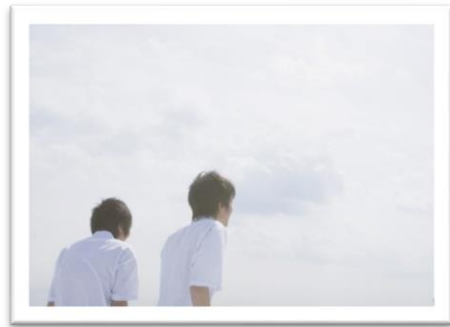


7 月・夏期講習の授業記録をお送りいたします。

初秋のみぎり——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。



昨年とは打って変わって記録的な猛暑に見舞われた今夏、7 月 25 日（水）より正味 28 日間にわたって実施された「夏期講習」は、8 月 31 日（金）をもって滞りなく終了いたしました。

この間、各々の生徒が希望する科目や分野の学力強化あるいは弱点箇所の克服を中心に進めてまいりました。とりわけ小 6・中 3・高 3 の受験生は、約 1 ヶ月あまりに及んだ夏期講習の中で、受験という大目標に向け集中的に勉強を積み重ねてきた結果、着実に受験生としての自覚を持ち始めている印象を受けます。

受験生にとっては、いよいよこれからが正念場でございます。

今後は第一志望校合格に向けより一層勉強に傾注して、後悔のないように頑張ってくださいよう切望いたします。この夏期講習で身につけた学力と勉強へ向かう姿勢が今後につながっていくよう、当塾は『中学生対象 土曜無料補講』『定期試験対策』『北辰テスト対策』等を通し、受験へ向けたサポートを引き続きしっかりと行ってまいります。

またその他の学年の生徒は、夏期講習で取り組んだ学習内容を今後の学習へ確実につなげていくと共に、自宅できちんと勉強する習慣をしっかりと身につけていきましょう。



■塾からのご案内■

① 高校入試ガイダンスを実施します。

来月 10 月 13 日（土）・14 日（日）に、個別指導会の各校舎にて、高校受験生のご父母を対象にした「高校入試ガイダンス」を実施いたします。こちらでは、当塾で独自に作成いたしました資料を用いながら高校入試に関わる様々な情報や知識をお伝えいたします。

詳しいご案内は後日各ご家庭へ郵送いたします。各位多数のご出席を心よりお待ちしております。

② 中 3 生対象《クラス授業 理科・社会》を実施しています。

県立高校を第 1 志望とする中 3 生対象の《クラス授業 理科・社会》。9 月以降も継続して来年の受験直前まで実施していきます。県立高校を第 1 志望とする生徒で、まだ受講していない生徒はぜひご検討ください。なお、実施日・時間帯は校舎によって異なりますので、詳細は所属する教室までお問い合わせください。

③ 自習スペース、開放しています。

各校舎で自習スペースを設けております。特に受験生は積極的に活用してください。

学習のアドバイス

今回は社会の「歴史の勉強法」について取り上げますが、まずはあまりおススメできない勉強法から紹介したいと思います。それは“問題集に解答を書き込んでそれを覚える”という勉強法です。これは定期テスト対策のときによく見かけますが、知識が断片的になってしまいますので、いずれ頭打ちになってしまいます。また、1 つの用語に対していろいろな問題が用意されているわけではありませんから、ワンパターンの問題にしか対応できなくなってしまうのです。問題集はあくまで知識が定着したかどうかの確認に使用しましょう。

では、知識をきちんと関連付けながら定着させるためには何をすればいいのでし



ょうか。その答えは「ノートまとめ」です。「ノートまとめ」は時間がかかりますので、効率が悪そうに感じる人もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。頭を使って考える時間が増えれば増えるほど、記憶が定着し忘れにくくなり、結果として短期間で身に付けることができます。ただし、実際にはどのようにまとめたらいいのかわからない人も多いと思いますので、以下にポイントを挙げていきます。

- ① 「いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように（5W1H）」を明確にする。
- ② 1 つの単元を見開きの状態でまとめるようにする。
- ③ きちんとルールを決めて色ペンを使う。（人物は赤、事件は青、法令は緑など）
- ④ 余計な言葉は書かずに用語だけを箇条書きにし、適宜矢印や記号を使う。
- ⑤ 余白を設けて後から情報を付け足せるようにする。

ただやみくもに覚えるだけでは知識は役に立ちません。「ノートまとめ」を行い体系的に整理することで、必要に応じて正しく活用できるようにしてください。



平成 31 年度入試の展望 ①

今回より、前回までの内容を踏まえながら、「平成 31 年度入試の展望」と題して、高校入試における有益な情報を提供していきたいと思いますので、ぜひご活用ください。第 1 回目は、県立高校の人気についてお話しさせていただきます。

平成 30 年度入試における公立全日制の受検率は前年より 2 % 低下しました。県の学費補助制度の周知により私立高校へ回った受検生がかなり増えたといえます。また、市や地域ごとに公的テストが全県で実施され、資料が蓄積されたことでデータに基づいた適切な志望校選択が行われているらしく、極端な高倍率校が減り、倍率の変動も少なくなってきました。定員増の川越・川越女子ですが、受験者数は前年並みで倍率は低下しました。また、例年高倍率の所沢北から大幅に受検者数を減らした和光国際や近年人気回復している所沢に流れたようです。川越南は今回も安定した人気を維持していますが、学力検査問題を採用した高校の中では学力レベルが低い市立川越や所沢西では受検者数が減少しました。東武線沿線では、朝霞西が定員減でやや倍率が上昇しましたが、志木、新座柳瀬はほぼ前年並みでした。西武線沿線では、豊岡、入間向陽の受検者数が減少し、所沢中央、狭山清陵に人気が集まりました。

こうした動向をいち早く確認する資料として、10 月と 12 月に行われる『進路希望調査』に注目してください。前年度と比較することで、今年度の人気をおおよそ把握することができます。特に募集人数が少ない専門学科や、学力レベルが拮抗している中堅校を志望する場合は要チェックです。

教室長日記

「置き勉」



9 月になって文部科学省が全国の小中学校を対象に「置き勉」を認めるといった通知を出すとの記事を見ました。私が小・中学生のころ、「教科書」は毎日自宅に持ち帰ることが当たり前のように思っていました。実技科目の道具等は学校に置いていたような気がします。教科書類は毎日家に持ち帰っていたと思います。しかし、私がこの仕事を始めたころは、すでに「置き勉」している生徒はいたと思います。その時、その生徒には「教科書は持ち帰って勉強するものだと思うけどな〜」と言っていたと思うし、それを許す学校の生徒指導もどうなのかな、と疑問に感じていました。

では、どうしてこのような状況になったのでしょうか。記事には要因として以下のことが挙げられています。

一つ目は、「ランドセル」が大きくなっていること。ランドセルのメーカーの調査によると「ランドセル本体」と中に入れる「教科書」等の重さを合計すると平均 4〜6 キログラムほどで、状況によっては何と 10 キログラムを超えることもあるそうです。二つ目は、「教科書」自体も大きく、重くなっていること。自分たちが小学生の時から比べるとほぼ倍の重さとのこと。そして最後に、その結果として成長期にある子供たちの首、腰に対する負担も大きく、実際に「痛み」を感じる子供もいるようです。

こうしてみると、改めて子供たちの置かれている環境が日々変化していることがわかります。

子供たちが心身ともに健康な学校生活を送れるためにも、私たち大人も環境の変化を理解し、現在の状況にあった指導・サポートをしていかなくてはいいけませんね。

（狭山ヶ丘校 石田）